

留学報告書

2015年10月

種田 修三

2015年夏にアリゾナ大学の植物科学部に入学して約3ヶ月が経ち、秋も随分と深まってきました。と言いたいところですが、アメリカ南西部のアリゾナはまだまだ夏真っ盛り。10月末の晴天時の最高気温がおおよそ摂氏30度であり、大半の人が半袖半ズボンで歩き回っています。

• アリゾナ大学の街、ツーソンとその周辺

アリゾナ大学はアリゾナ州の南部、メキシコとの国境から北へ車で約30分の街ツーソンにあります。アリゾナ州はグランドキャニオンやラスベガスに連想されるような砂漠ばかりと思われがちですが、ツーソンは国立森林公園に囲まれており比較的緑の多い街です。その中でも、コロナド国立森林内にある標高約3000mのレモン山は独特な植生を有しています。レモン山の麓から中腹まではサボテンや灌木が生い茂っていますが、標高が上がるにつれ白樺等の針葉樹が目立つようになり、山頂では針葉樹しかありません。冬になると山頂はスキー場にもなります。このように、標高に応じて劇的な気候と植生の変化を見せるレモン山はツーソン市民の憩いの場です。また、ツーソンはタコスやトルティーヤに代表されるメキシコ料理店の激戦区です。まだそれほど食べてはいないので、これからメキシコ料理をたくさん味わっていきたいと思います。

• 授業

アリゾナ州の農業を学ぶ野外実習型の授業では、pumpkin patch と呼ばれるハロウィーンイベントが行われているかぼちゃ畑で病気に罹っているかぼちゃの葉を探したり（もちろんイベントも楽しみました！）、メキシコとの国境での検疫に立ち会ったりと、農業だけでなくアメリカ文化や物流の裏側まで学んでいます。また、学部が行っているセミナーでは毎週他大学からの研究者の講演を聞くことができます。学生も招待する研究者をリクエストできる上、招待された研究者と共に昼食をとれるため（もちろんセミナー後のビールも！）、研究者間の人脈を広げることができます。こうした機会は日本の大学ではなかなか得られないため、非常に貴重な時間となっています。

• 研究生活

研究生活では、植物と菌の共生関係についての研究を進めています。その過程で（なぜか）木の年輪を観察しています。木の年輪は多くのことを語ります。年輪を調べることで、樹齢だけでなく山火事の頻度や炭素循環、食害といったその土地の過去の気候や環境の変化を知ることができます。実は、この年輪学はアリゾナ大学発祥であり、アリゾナ大学の年輪研究は非常に盛んだそうです。そのため、構内には年輪学研究専用の、外見が木の幹のような建物があります（しかしコンクリート建築）。この先もしばらくの間、この建物で大量の木を切りやすりをかける毎日を過ごすことになりそうです。